

# 第3章 セットアップについて

## 3.1 セットアップの起動

SCSIインターフェースボード、および使用するSCSI機器の接続がすべて終了したら、次にSCSIインターフェースボードのセットアップを行わなければなりません。この作業はSCSIインターフェースボード上のROM（リード・オンリー・メモリ）に書き込まれたユーティリティ「SCSIインターフェースボードセットアップ」から行ないます。



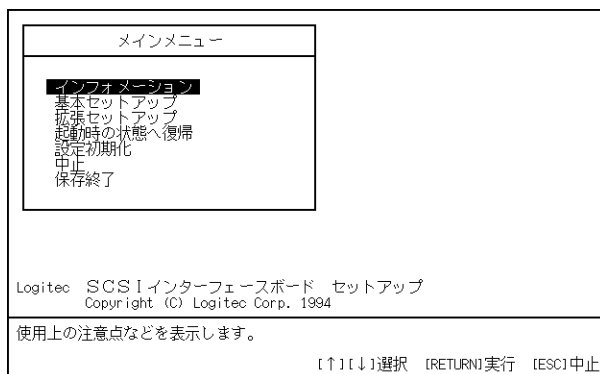
### ご注意

SCSIインターフェースボードセットアップは、必ず使用するすべてのSCSI機器を接続してから行なってください。また、SCSIハードディスクを接続する場合は、必ずハードディスクのフォーマットをする前にセットアップを行なってください。

### セットアップの起動方法

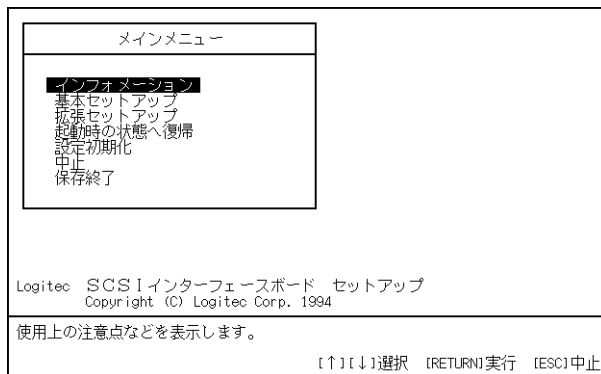
SCSI機器、パソコン本体の順に電源を入れ、キーボード上の〔CTRL〕キーと〔L〕キーを押し続けてください。ピーツとブザーが鳴り続けたら、キーを離してください。このようにするとセットアップが起動し、以下の画面が表示されます。

もし画面が表示されないようでしたら、パソコン本体のリセットボタンを押してから〔CTRL〕キーと〔L〕キーを押し続けてみてください。



## 3.2 メインメニューについて

セットアップ起動時、画面にはメインメニューが表示されています。ここで **↑** キーを使用してカーソルを項目にあわせ、**Enter** キーを押すことにより各項目の処理を行なうことができます。



### インフォメーション

**Point**

セットアップに関する最新情報、特殊なセットアップを行なわなければならない機種に関する情報などを表示します。この内容は必ず最初にお読みください。

### 基本セットアップ

SCSI インターフェースボードを使用する上で、基本となるセットアップを行ないます。詳細は 3.3 節をご参照ください。

### 拡張セットアップ

パソコン本体の機種によって行なう特殊なセットアップ、もしくはマルチベンダー機能に関するセットアップなどを行ないます。詳細は 3.4 節をご参照ください。

## 起動時の状態に復帰

「基本セットアップ」 / 「拡張セットアップ」で設定した内容を破棄して、セットアップ起動時の状態に設定を戻します。この項目は「保存終了」を行なうまで有効ですが、保存終了してしまった内容を元に戻すことはできません。保存終了した内容を初期化したいときには、次の「設定初期化」を選択してください。

## 設定初期化

それまでに設定したすべての内容を破棄して、工場出荷時の状態に設定を戻します。セットアップの内容に不都合があり、システムが起動しなくなった場合などに使用します。

## 中止



「基本セットアップ」 / 「拡張セットアップ」で設定した内容を破棄して、セットアップを中止します。これを選択すると設定内容はメモリに保存されません。

## 保存終了

「基本セットアップ」 / 「拡張セットアップ」で設定した内容をSCSIインターフェースボード上のメモリに保存して、セットアップを終了します。「基本セットアップ」 / 「拡張セットアップ」で設定を変更した場合はこの項目を選択して設定内容の保存を行なってください。

## 3.3 基本セットアップについて

メインメニューから「基本セットアップ」を選択すると、以下のよう  
な基本セットアップのメニューが表示されます。

ここで  キーでカーソルを変更したい項目にあわせて、 キーを  
押すと変更可能な選択肢が表示されます。すべての設定が終了したら、  
〔ESC〕キーを押してメインメニューに戻ってください。

基本セットアップ	
I/FボードIDナンバー	7
制り込みレベル(INT)	0
DMAチャンネル	3
メモリアドレス(ノーマル)	DC000~DCFFF
メモリアドレス(ハイレン)	EC000~ECFFF
パソコン設定	80286以上の機種
I/Oベースアドレス	CC0

Logitech SCSI インターフェースボード セットアップ  
Copyright (C) Logitech Corp. 1994

インターフェースボードのSCSI-IDナンバーを設定します。  
(特に指定のないかぎり出荷時設定のまま使用してください。)  
[↑][↓]選択 [RETURN]実行 [ESC]終了

### I/FボードIDナンバー

SCSI インターフェースボードのIDナンバーを設定しますが、通常の場合  
は変更しないでください。



#### ご注意

ここで設定するのはインターフェースボードのIDナンバーであり、接続するSCSI機器のIDナンバーとは異なる番号を設定しなければならぬことにご注意ください。また、本製品では以前の弊社SCSIインターフェースボードのように、インターフェースボードのIDナンバーによってシステムの高速起動を行なう機能はありません。システムの高速起動は「拡張セットアップ」の「SCSI機器の詳細設定」から行ないます。詳細は3.4節をご参照ください。

## 割り込みレベル ( I N T )

SCSI インターフェイスボードの使用する割り込み ( I N T ) を設定します。本製品は出荷時に、IDE/SASI ハードディスクや2HDフロッピーディスクなど主な周辺機器と併用できる割り込みを指定してありますので、通常の場合変更の必要はありません。

特殊な周辺機器を併用する場合のみ、割り込みが重複しないように設定してください。

## DMA チャンネル

SCSI インターフェイスボードの使用するDMAチャンネルを設定します。本製品は出荷時に、SASI ハードディスクや2HDフロッピーディスクなど主な周辺機器と併用できるDMAチャンネルを指定してありますので、通常の場合変更の必要はありません。

特殊な周辺機器を併用する場合のみ、DMAチャンネルが重複しないように設定してください。

## メモリアドレス ( ノーマル )

## メモリアドレス ( ハイレゾ )

SCSI インターフェイスボードの使用するローカルメモリアドレスを設定します。通常の場合に変更しないでください。

## パソコン機種設定


パソコン本体がV30をCPUとしている場合、もしくはハイレゾモードを使用する場合のみ設定を変更してください。この「ハイレゾモード」はPC-98XA/XL/RLなどの高解像度モードのことで、いわゆるウィンドウズアクセラレータボードを指すのではないことにご注意ください。

## I / O ベースアドレス

SCSI インターフェイスボードの使用するI/Oアドレスのベース値を設定します。通常の場合に変更しないでください。

## 3.4 拡張セットアップについて

メインメニューから「拡張セットアップ」を選択すると、以下のような拡張セットアップのメニューが表示されます。

ここで キーでカーソルを変更したい項目にあわせて、 キーを押すと変更可能な選択肢が表示されます。すべての設定が終了したら、〔ESC〕キーを押してメインメニューに戻ってください。

拡張セットアップ	
データ転送モード	バスマスタ
SCSI 転送方式	同期
同期転送時の転送速度	10 MByte/Sec
SCSI 機器の検索時間	05 秒
クイックリスタート	しない
SCSI 機器の詳細設定...	
特定機種の設定...	
カスタムセットアップ...	

Logitech SCSI インターフェースボード セットアップ  
Copyright (C) Logitech Corp. 1994

パソコンとインターフェースボード間のデータ転送モードを設定します。

[↑][↓]選択 [RETURN]実行 [ESC]終了

### データ転送モード

インターフェース <-> パソコン間のデータ転送モードを「バスマスタ」/「I/O」/「DMA」から選択します。以下の機種では設定を「I/O」に変更する必要があります。

PC-9801RX    PC-H98シリーズ    PC-H98S  
PC-286 model 0

これ以外の機種では「バスマスタ」でご使用ください。

### SCSI 転送方式

本製品のデータ転送方式を「同期転送」/「非同期転送」から選択します。通常の場合変更しないでください。

## 同期転送時の転送速度

「SCSI転送方式」で同期転送を選択した場合の転送速度を「10MByte/Sec」/「5MByte/Sec」から選択します。通常の場合、10MByte/Secでご使用いただけますが、接続するSCSI機器の取扱説明書に5MByte/Secで使用するように明記されている場合のみ、設定を変更してください。

## SCSI機器の検索時間

システム起動時に接続されているSCSI機器をチェックするための検索時間を設定します。この項目は選択後、検索時間を数値で入力します。



### ご注意

検索時間をあまり短く設定すると機器によっては認識されない場合があります。初期設定（5秒）以下には設定しないようお勧めします。


## クイックリスタート

この項目を「する」にしておくと、パソコン本体をリセットしたときの機器の接続チェックを短時間で終了させることができます。ただし、電源ON時の接続チェックは通常通りの時間がかかります。

## SCSI機器の詳細設定

この項目を選択すると、以下のようにIDナンバーごとの詳細設定が一覧表示されます。

SCSI 機器の詳細設定								
IDナンバー	<input checked="" type="checkbox"/>	1	2	3	4	5	6	7
ID認識	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON
クイックフォーマット	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
クイック領域確保	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
フォーマットプロテクト	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
ライトプロテクト	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
HDパラメータ	Log	Log	Log	Log	Log	Log	Log	Log
	( Log:Logitech			N92:92互換			Log:Logitech	Log:Logitech)

ここでは接続されているSCSI機器ごとに詳細な設定を行なうことができます。設定を変更する場合には、キーでカーソルを変更したい機器のIDナンバーにあわせて  キーを押すと、下のような設定変更のウィンドウが表示されます。

I D - 0	
<input checked="" type="checkbox"/> ID認識	ON
クイックフォーマット	OFF
クイック領域確保	OFF
フォーマットプロテクト	OFF
ライトプロテクト	OFF
HDパラメータ	Logitec方式
パラメータの取得	—
パラメータの直接入力	—

#### - 1 ID認識

この項目を「OFF」に設定しておく、システム起動時の接続チェックで対応するIDナンバーのチェックはスキップされます。ですから、接続されている機器のIDナンバーのみ「ON」に設定し、機器が接続されていないIDナンバーを「OFF」にしておく、システム起動時の接続チェックを高速で終了することができます。（これは以前の弊社SCSIインターフェイスボードでサポートしていた「システムの高速起動」と同じです。）ただしこの設定を行なった場合、SCSI機器の接続構成やIDナンバーを変更したら、必ず再設定を行なわなければなりません。これを行なわないとSCSI機器が認識されないトラブルが発生します。

#### - 2 クイックフォーマット

#### - 3 クイック領域確保

この2項目はSCSIハードディスクのフォーマット時間を短縮するための設定です。「クイックフォーマット」はフォーマットの第1段階である初期化を高速で終了します。「クイック領域確保」はフォーマットの第2段階である領域確保を高速で終了します。

ただし、どちらもトラブルの発生したハードディスクを再フォーマットする場合には、必ず「OFF」に設定してください。また、MS-DOS以外のOSではSCSI BIOSを使用しない場合もありますので、この設定は無効になります。



- 4 フォーマットプロテクト
- 5 ライトプロテクト

この2項目はハードディスクのデータ保護のために、ハードディスクへの書き込みを制限する設定です。「フォーマットプロテクト」を「ON」に設定すると、ハードディスクのフォーマット（初期化）のみが禁止されます。「ライトプロテクト」を「ON」に設定すると、BIOSを経由したハードディスクへの書き込みがすべて禁止されます。

ただし、「フォーマットプロテクト」をONにしてあっても、領域の開放は可能ですのでご注意ください。また、MS-DOS以外のOSではSCSI BIOSを使用しない場合もありますので、この設定は無効になります。

- 6 HDパラメータ

この項目はヘッド数、シリンダ数などのSCSIハードディスクに関するパラメータを設定するものです。この設定方式には以下の3つがありますので、適切なものを選択してください。

#### Logitec方式

弊社ハードディスクシリーズを接続する場合の方式です。

#### 92互換方式

日本電気株式会社純正のSCSIインターフェースボード「PC-9801-92」に接続していたハードディスクを本製品に接続する場合の方式です。

#### マルチベンダー方式


その他のサードパーティ製のSCSIインターフェースボードに接続していたハードディスクを本製品に接続する場合の方式です。これを選択した場合は、パラメータを設定しなければなりません。「パラメータの取得」でハードディスクから取得するが、「パラメータの直接入力」で入力してください。


ID-0	
ID認識	ON
クイックフォーマット	OFF
クイック領域確保	OFF
フォーマットプロテクト	OFF
ライトプロテクト	OFF
HDパラメータ	マルチベンダー
パラメータの取得	ヘッド数 未設定
パラメータの直接入力	シリンダ数 未設定


マルチベンダーに設定した直後

- 7 パラメータの取得


この項目は「HDパラメータ」が「マルチベンダー」になっていないと実行できません。

「HDパラメータ」を「マルチベンダー」に設定した後で、キーでカーソルを「パラメータの取得」にあわせて  キーを押すと、該当するハードディスクからパラメータが取得されます。

(このとき、一度警告メッセージが表示されます。これはパラメータを取得する際にハードディスクをアクセスするため、基本セットアップで割り込みレベル、DMAチャンネルが正常にセットされていないとシステムが停止する可能性があるためです。通常の場合は  キーを押して作業を進めてかまいませんが、ここでシステムが停止してしまう場合には、パソコン本体をリセットし、基本セットアップを行なってください。)


パラメータの取得			
ドライブ	Logitec	HD-540	1000
ヘッド数	008		
セクタ数	032		
セクタ長(Byte)	512		
第1領域OS	MS-DOS		
		中止	

正常にパラメータが取得されると、以下のウィンドウが表示されます。

多くの場合には、ここで表示されるパラメータをそのまま使用することによってハードディスクを認識することができます。カーソルが「設定」にある状態で  キーを押すと、取得したパラメータを保存して拡張セットアップに戻ります。もし、これを実行しても接続したハードディスクが認識されない場合には、次の「パラメータの直接入力」を実行してください。

- 8 パラメータの直接入力

この項目は「HDパラメータ」が「マルチベンダー」になっていないと実行できません。

「HDパラメータ」を「マルチベンダー」に設定した後で、キーでカーソルを「パラメータの直接入力」にあわせて  キーを押すと、ハードディスクのパラメータ(ヘッド数、1トラックあたりのセクタ数)を直接入力することができます。



パラメータの直接入力

ここで入力するパラメータは各SCSIハードディスクドライブ固有のものであります。そのため、ハードディスクのメーカーにパラメータ（ヘッド数、1トラックあたりのセクタ数）を問い合わせ、正確な値を入力してください。（その他の情報についてはハードディスクから取得したものをそのまま使用します。）




### ご注意

ハードディスク以外のSCSI機器ではマルチベンダー機能を使用することはできません。

### 特定機種の設定

これはパソコン本体の機種によって行なわなければならない特有の設定を自動的に行なう項目です。「拡張セットアップ」のメニューでこの項目を選択すると以下のようなウィンドウが表示されます。

特定機種の設定	
<p>特定のパソコンに接続する場合のハードウェアタイミングの変更を行います。</p> <p>右欄のパソコンをご使用の場合、機種を選択してください。</p> <p>該当しない場合は「その他」を選択してください。（PC-9801BX, PC-9821Ceをご使用の場合は「その他」を選択してください。）</p>	<p><b>その他</b></p> <p>PC-9801BX2 PC-9821Ce2 PC-9821Bf PC-9821Ae</p>

このウィンドウの右に記載された機種を使用している場合には、キーで該当する機種にカーソルをあわせて  キーを押してください。



もし、この設定を行なった後で本製品を取り外し、別のパソコン本体に接続しなおした場合には、必ず新しいパソコン本体にあわせてこの設定をやり直してください。

#### カスタムセットアップ

この項目は、何かのトラブルが発生して弊社テクニカルサポートから指示があった場合を除き、使用することはできません。「拡張セットアップ」のメニューから「カスタムセットアップ」を選択すると以下のように表示されます。



ここで弊社テクニカルサポートからお知らせするパスワードを入力すると、カスタムセットアップが使用できるようになります。指示にしたがってセットアップを行なってください。



#### ご注意

---

カスタムセットアップの内容はハードウェアの基本的な部分を設定するため、ある意味で非常に危険です。もし、パスワードを入力したとしても絶対に独断で設定しないでください。

---

### 3.5 セットアップの終了

---

「基本セットアップ」 / 「拡張セットアップ」の設定が終了したら、メインメニューから「保存終了」を選択してください。（もし、何かの原因で設定した内容を破棄したい場合は「中止」を選択してください。）

以下のメッセージが表示されますので、カーソルが「YES」にある状態で  キーを押してください。



以下のメッセージが表示されたら、設定した内容がSCSIインターフェースボード上のメモリに保存されました。ただし、設定した内容を有効にするためには一度リセットが必要です。パソコン本体のリセットボタンを押すか、電源をOFFにしてください。

設定内容を変更しました。  
コンピュータのリセットスイッチを押してください。

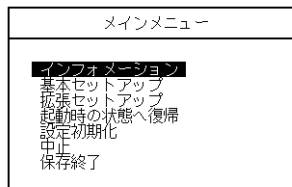
この後、接続したSCSI機器に応じて個々の作業（SCSIハードディスクのフォーマット、CD-ROMデバイスドライバのインストールなど）が必要となります。SCSI機器のマニュアルにしたがってそれぞれの作業を行なってください。

## 3.6 セットアップの初期化

何かのトラブル（セットアップを変更したらシステムが起動しなくなった場合など）が発生して、セットアップを工場出荷時の状態に戻りたいときは、以下のような方法でセットアップの初期化が可能です。

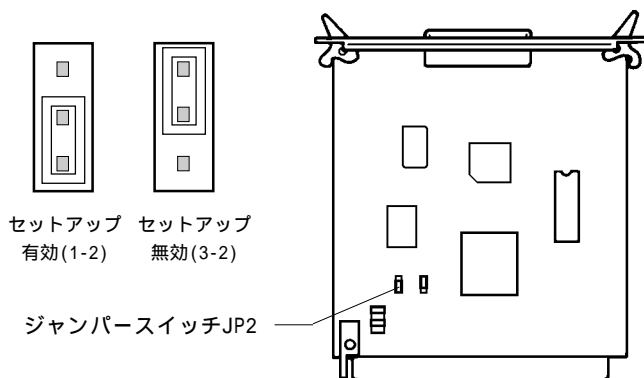
### セットアップ起動が可能な場合

システム起動時に〔CTRL〕+〔L〕キーを押してセットアップを起動できる場合には、メインメニューから「設定初期化」を実行することによって、すべてのセットアップ内容を破棄して工場出荷時の状態に戻すことができます。



## セットアップ起動が不可能な場合

〔CTRL〕＋〔L〕キーを押してもセットアップが起動しなくなった場合には、SCSIインターフェイスボード上のジャンパースイッチJP2のジャンパープラグを「3-2」に変更することにより、セットアップ内容を無効にしてシステムを起動することができます。（下図参照）



この状態で〔CTRL〕＋〔L〕キーを押しながらシステムを起動し、セットアップのメインメニューから「設定初期化」を実行すると、セットアップの内容を工場出荷時の状態に戻すことができます。

### Point

セットアップの内容を修正したら、必ずセットアップを「保存終了」して、ジャンパースイッチJP2の設定を「1-2」に戻しておいてください。これを行なわないと修正したセットアップの内容が有効になりません。

### ！

### ご注意

ジャンパースイッチJP2は設定を初期化するスイッチではなく、セットアップの内容を無視してシステムを起動するためのスイッチです。したがって、セットアップを「保存終了」しないでジャンパースイッチJP2を「1-2」に戻すと、以前のセットアップ内容がそのまま有効になってしまいますのでご注意ください。